

県央経営者会会報

第二号

発行：平成17年9月

県央経営者会第一回例会開催



伊勢原地区
田中 義雄 副会長

座間地区
中野 広子 副会長

平塚地区
長谷川 康幸 副会長

平成17年8月2日、午後5時より厚木ロイヤルパークホテルにて「県央経営者会」の第一回例会が開催されました。当日は110余名の会員が集まり会場は熱気に包まれました。まず中野広子副会長の開会宣言に続き大泉政治会長の挨拶があり、引き続き「明日への経営戦略」と題して大泉会長の特別講演が行われました。講演はユーモアを交えながら、株式会社オレイズミの設立当初から最近の東証一部上場に至る成功への道のりを詳しく披露したもので、会員にとつても大変有意義な内容のものでした。講演の後は各部会を代表して副会長より挨拶があり、これから県央経営者会の目標に向かっての決意表明が述べられました。最後に幹事報告や、事務局長として福島悟郎氏が就任したことが報告されました。ついで中田義雄副会長の閉会宣言により第一回例会が終了しました。例会終了後直ちに懇親会に移り、会員相互の情報交換の場として、また会員同士の親交の場として多いに盛り上りがありました。

日時 平成17年8月2日
会場 厚木ロイヤルパークホテル

大泉会長 特別講演

明日への経営戦略

株式会社オーライズミ 代表取締役社長 大泉 政治

株式会社オーライズミは当初大手の下請け会社として出発したが、大

泉氏が26歳のときに父親から会社を引き継いだとき、2つの条件を出した。それは下請けをやめることと父親は引退してほしいということであった。大泉氏は後に「サクセス方程式」と言う様になつたが、その戦略はすでにこの時から育てていたようである(サクセス方程式とは情熱と高い目標十サシスセソ=高収益企業のこと)。まず脱下請けのために立てた戦略はサバイバル戦略であり、生き残るためにしなければならないのは新技術・新製品の開発であつた。そこで当時不便だった硬貨の識別機、すなわち硬貨計数機の開発を目指したのである。これが500円硬貨の誕生という時期に致し、内閣総理大臣賞を受賞しオーライズミ発展の基となつた。そして2度目の内閣総理大臣賞を受賞したのが昭和57年である。この年には東京、大阪に支店を開設しよいよ全国を視野に入

れた展開が始まったのである。

ところで「サシスセソ」のサはサバイバルで、あつたが、その他の言葉は実は「シ」は人材、「ス」はスピード、「セ」はゼネラルマネージャー、「ソ」は創造性・創造力のことである。「シセソ」は人そのものにかかる言葉であるが、スピードは株式会社オーライズミの歩みそのものといつても過言ではない。昭和57年内閣総理大臣賞を受賞して以来次々と新製品を世に出し、これらが数々の賞を受賞して発展にはずみをつけたのである。またこの年は株式会社オーライズミラーズの前身であるオーライズミ販売株式会社が設立された。いまやオーライズミラーズは「くいもの屋わん」を中心とした一味違った居酒屋システムとして全国に店舗を展開中である。

昭和59年の新紙幣改札は戦略的中といえるであろう。このことにより株式会社オーライズミは一段と上昇機運が高まり、株式の公開準備が始まつた。平成12年ジャスマックへ上場、平成14年東証二部上場、そして平成16年には東証二部上場をとげたのである。この間平成16年には再度の新紙幣改札が行われ、会社は過去最高の利益を計上した。しかし東証二部上場は単なる通過点に過ぎず、今後は100億円企業を目指してのチャレンジが続くのである。



日本では、2008年に人口のピークを迎えるが、以降は減少傾向に陥る。現代の消費社会において確実に変化が必要になるはずである。何が求められていくのか、「サシスセソ」でぜひ、速やかな対応を心がけていただきたい。今後オーライズミグループでは「遊・食・動」を柱として、経営戦略を展開していく予定である。そして地域経済が活性化するためには、県央地区の相互交通手段の整備を進める必要がある。とりわけ、大量輸送を可能とする鉄道網の整備は最重要な問題であり、ただ単に通過交通とならない、目的をもつた移動手段として鉄道を発展させていかなければならぬ。それが、この県央地区発展への誘導路にもつながるのだと考へる。まず、この県央経営者会ができるところ、始めていかなければならないことをこれから一緒に話し合い、スピードに実践していくうではありませんか。



懇親会会場



会員企業PR

伊勢原地区

株式会社 望星薬局

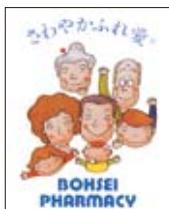
代表取締役 石塚英夫

(業種) 調剤 医薬品、医療機材、医療用食器、
介護用品など販売

キャッチフレーズ 「性格な調剤ときめ細かな服薬指導」

TEL 0463-91-4193

URL <http://www.bohseipharmacy.com>



秦野地区

モモセ重工業株式会社

代表取締役 百瀬 豊

(業種) ユニットバス部材、天井パネル、外装パネル、
建設用内外装部材加工

キャッチフレーズ 信義・節操を基本理念として豊かな生活をめざす

TEL 0463-81-6211

URL <http://www.momosejkg.co.jp>

130万人都市をめざして

交通アクセス問題調査報告(1)

県央経営者会では、15年後、20年後の長期ビジョン構想として県央地区で130万人都市をめざすため、今号から勉強会や調査研究をシリーズ化し会員の皆様に隨時ご報告してあります。その第一弾として、小田急と相鉄の相互乗り入れについて、相模鉄道元役員のA氏に問題点や展望などいろいろとお話をうかがってまいりました。

交通アクセスの改善には巨額な費用、時間、システムなど、解決しなければならない問題が多くあります。しかし、鉄道会社、行政、関係団体が話し合い、実現化に向けて協力体制を築いていけば、解決の糸口を見つけだすことが出来ると思います。今回のレポートでは、小田急と相鉄の相互乗り入れについての問題点と展望をご報告いたします。

問題点 1. 相鉄線と小田急線では電車の車両幅が違う

車両の幅は鉄道会社が導入している車両規格によって異なります。相鉄線の車両は小田急線の車両より幅が広くなっている為、現状では車両の乗り入れはできません。ホームの修繕には大変な時間と費用が必要となるため、相互乗り入れの可能性として、車両の規格(9000系車両)を統一する方法などが考えられます。しかし相鉄は9000系車両をあまり導入しておらず、車両確保には多額な費用が必要となります。

問題点 2. ダイヤ再編成、信号システムの統一

相鉄線も小田急線もダイヤの再編成が必要となります。さらに信号システムも鉄道会社によって違いがあり、そのシステムを統一しなければなりません。

問題点 3. 車両基地の確保

乗り入れ車両を格納するための車両スペースを新たに設けなければなりません。車両スペース建設には土地の確保が必要となります。

展望 1. 大手企業が乗り入れを希望している

日産はじめ県央と横浜に拠点を持っている大手企業が、相鉄線の小田急線乗り入れを希望しているそうです。このことは関係市・町はもとより県の関心事でもあります。

展望 2. バリアフリー化

国から各鉄道会社にバリアフリー化の要望が出ているようです。バリアフリー化の効果を最大限にするには階段をなくすことだけでなく、乗り換へがない交通基盤整備が望ましいと考えられます。

展望 3. 地域住民の声を反映させる

最も重要な展望は、県央地区に住む住民の声を反映させることです。住民の要望を署名活動や公開討論会によって問題意識を高め。それによって鉄道会社を動かすのが重要なことになると考えられます。

県央経営者会は上記の問題解決と地域経済活性化を目指し、実現化に向けて取り組んでいきたいと考えております。

※第二回合同地区部会及び10月例会にて「参加を宜しくお願い致します。」

理事会・第二回合同地区部会

日時	平成17年9月20日(火)	場所	厚木商工会議所4階事務局
日時	平成17年9月20日(火)	場所	厚木商工会議所5階大会議室
日時	午後5時より	理事会	午後6時より
日時	午後6時より	合同地区部会	午後6時より



サロンのご案内

『魅力あるまちづくり
と経済効果』

場所 厚木ロイヤルパークホテル

10月例会

日時 平成17年10月12日(水)午後5時より
内容 山口巖雄厚木市長特別講演

メール案内

9月1日より事務局にメールを開設しました。
kenou-k@tanzawa.or.jp

毎週月曜日夕方から、県央経営者会事務局にてサロンを開催します。大泉会長を交えて情報交換会や経営政策などをざっくばらんに話せる場にしたいと考えております。お時間のある方は是非ご参加下さい。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

スケジュール

事務局便り